

霧島山（えびの高原（いおうやま硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方气象台

えびの高原で、6月13日に現地調査を実施しました。

硫黄山の南側の火孔では活発な噴気活動が続いていますが、硫黄山の西側約500mの噴気量は少なくなっていました。なお、硫黄山南監視カメラで確認していた硫黄山の南側の湯だまりは、6月11日以降縮小しています。

硫黄山周辺の沢では、これまで白濁していた沢水が透明になっていました。

【防災上の警戒事項等】

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1～5）

えびの高原で、6月13日に現地調査を実施しました。

硫黄山の南側の火孔では活発な噴気活動が続いていますが、5月10日の観測に比べて、硫黄山の西側約500mの噴気量は少なくなっていました。

白鳥山からの観測では、硫黄山西側斜面において火口内から泥水の流下が5月10日の観測で確認されていましたが、6月13日の観測では確認できませんでした。

硫黄山南監視カメラで確認していた硫黄山の南側の直径20～30m程度の湯だまりは、6月11日以降縮小しています。

硫黄山周辺の沢では、5月31日の観測では白濁した泥水が流れていましたが、6月13日の観測では透明の水が流れていました。また、6月5日にえびの市が整備した沈殿池の上流の沢の水も白濁しておらず、透明でした。

- 1) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 霧島山では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

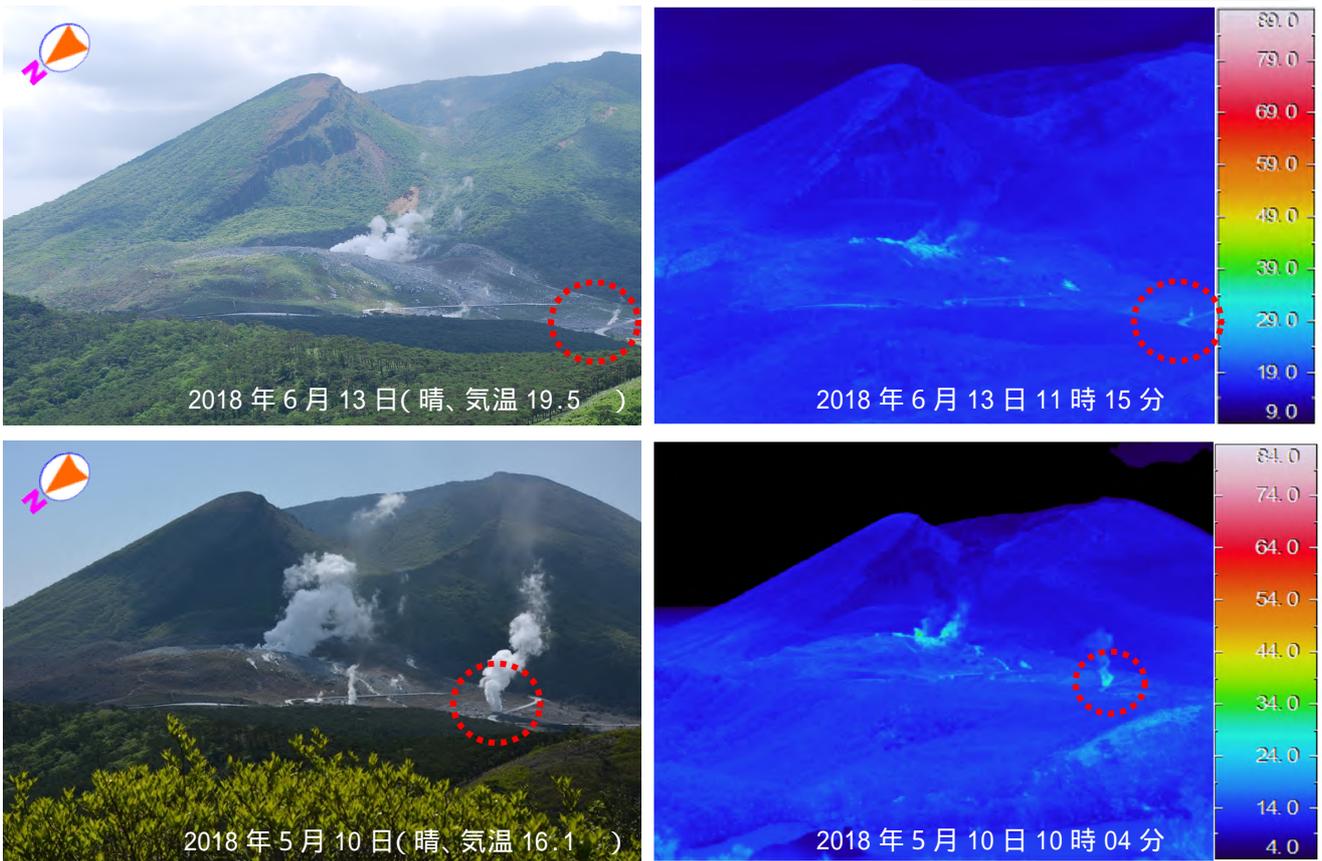


図1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山の噴気の状態（白鳥山から観測）
硫黄山の南側の火孔では活発な噴気活動が続いていますが、6月13日の観測では5月10日の観測に比べて、硫黄山の西側約500m（赤破線）の噴気の量は少なくなっていました。

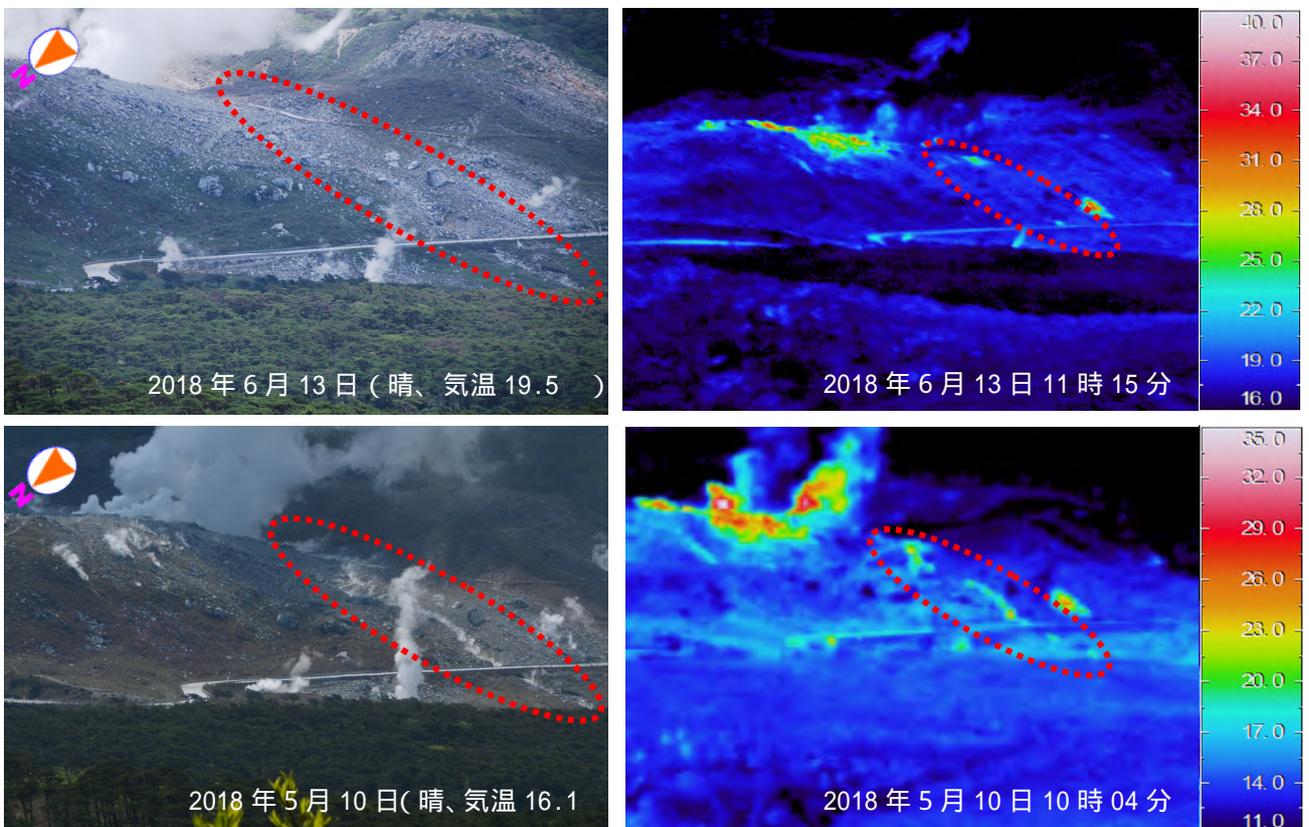


図2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山西側斜面の状況（白鳥山から観測）
硫黄山西側斜面において火口内から泥水の流下（赤破線）が5月10日の観測で確認されていましたが、6月13日の観測では確認できませんでした。

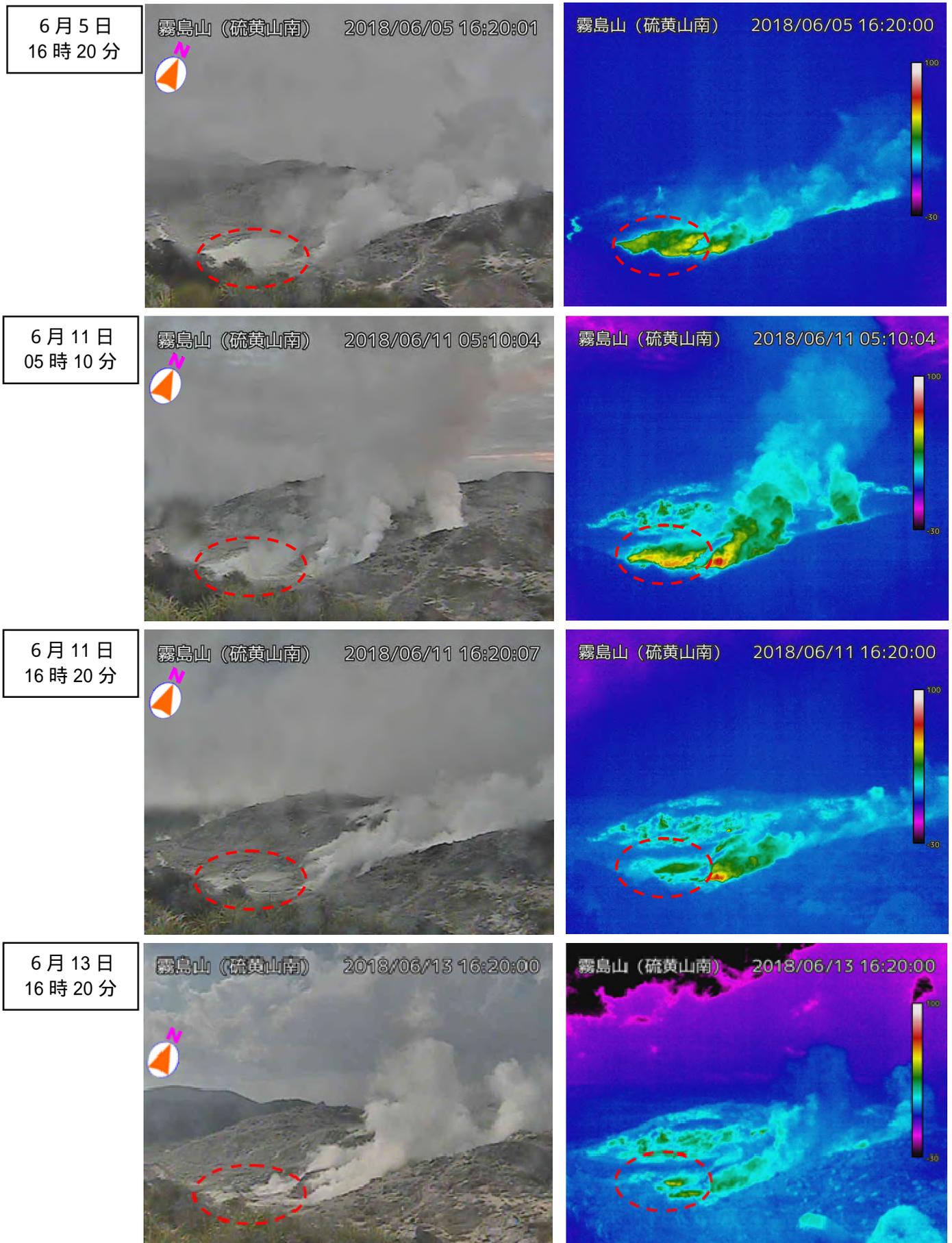


図 3 霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) 硫黄山の火口付近の状況(硫黄山南監視カメラによる)
硫黄山南監視カメラで確認していた硫黄山の南側の直径 20~30m 程度の湯だまり(赤破線)は、6 月 11 日以降縮小しています。



図4 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山周辺の沢の状況（沈殿池の下流）
（上段：6月13日、下段：5月31日）

硫黄山周辺の沢では、5月31日の観測では白濁した泥水が流れていましたが、6月13日の観測では透明の水が流れていました。



図5 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山周辺の沢の状況（沈殿池の上流）
6月5日にえびの市が整備した沈殿池の上流の沢の水も白濁しておらず、透明でした。

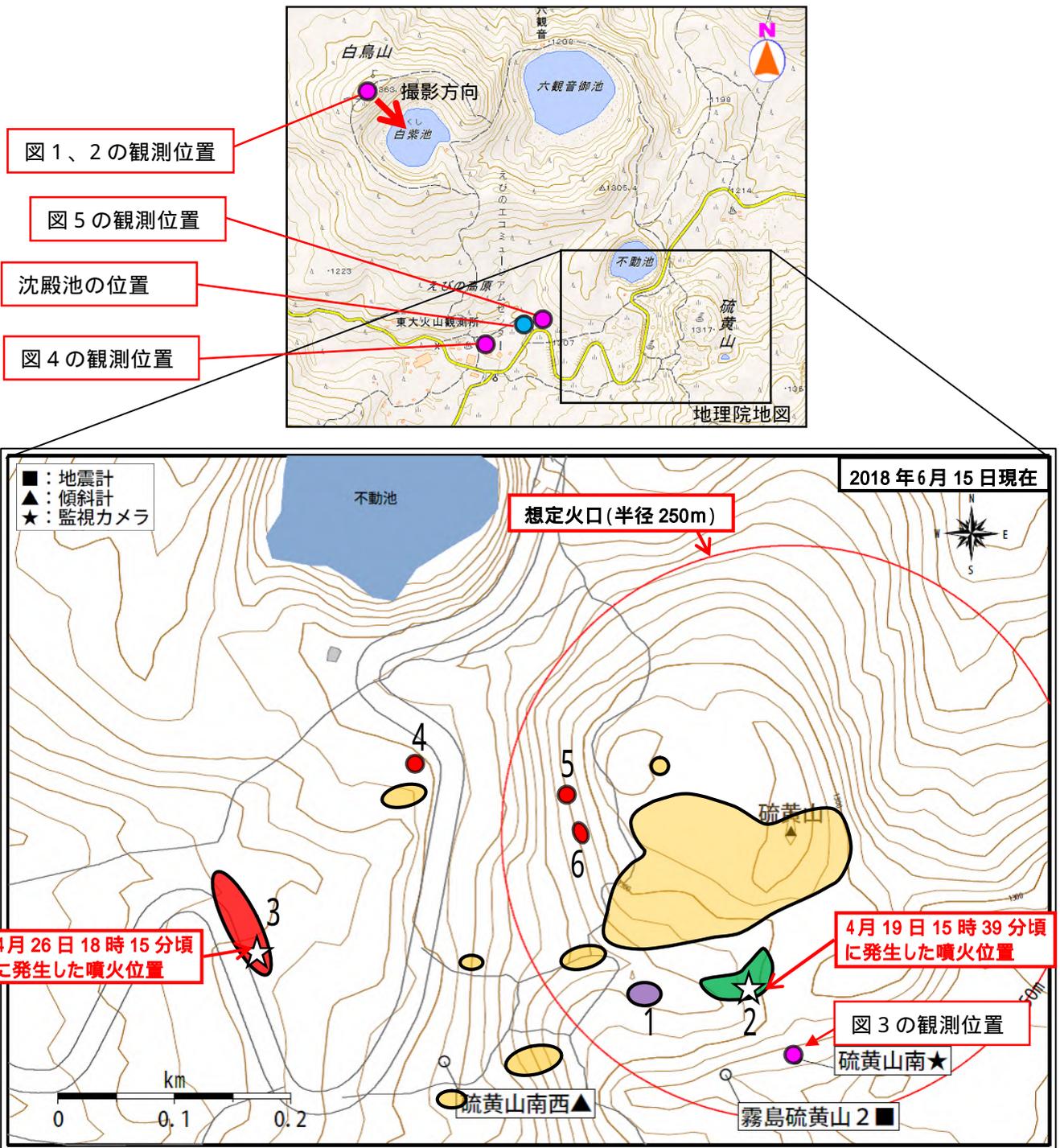


図 6 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火位置、主な熱異常域及び観測位置

- ・ 橙色は主な熱異常域及び噴気域を示します。
- ・ 4月9日に確認した噴気域及び熱異常域を で示します（一時期、活発な泥水の噴出がみられました）。
- ・ 噴火以降に拡大した噴気域を 及び で示します。
- ・ の領域内で湯だまり及び泥水の噴出がみられています。
- ・ 図 1～5 の観測位置を で示します。
- ・ 6月5日にえびの市が整備した沈殿池の位置を で示します。

2018年4月以降に出現した噴気域を、番号で示します。以下は噴気域を観測し始めた日付です。

1. 火口内の南西側 2018年4月9日～
2. 火口内の南側 2018年4月19日～
3. 硫黄山の西側約500m 2018年4月20日～
4. 硫黄山の西北西側約350m 2018年4月22日～
5. 火口内の西北西側 2018年4月22日～
6. 火口内の西側 2018年4月26日～